

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度末成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る	ルールを守り、礼儀やマナーを身に付けさせる	・全校集会、学年集会、HR活動を通して規範意識の向上を図る	・アンケートなどを実施して、生徒の意識にどういった変化が見られるか	・学年が下がるほど規範意識が高く、礼儀やマナーを身に付けている。入学時よりの指導が学校全体に浸透しているものと思われる。学年が上がっても、意識を高く持ち続けるような指導が必要である。	A	・教師自身が気が抜かず、できていたことができないならないように、継続的に指導をしていく。	遅刻者数の減少について、どのような指導が効果を上げているのか。 遅刻したその日の放課後に指導する形が定着しており、一定の成果を上げていると考えられる。また、個々の生徒の状況に応じたきめ細やかな指導が必要であるとする。
			・外部講師を招き、インターネットトラブルほか高校生の抱える諸問題について考えさせる機会を確保する	・アンケートなどを実施して、生徒の意識にどういった変化が見られるか	・制服の着こなしや化粧等の注意・指導を行う場面が減り、少数の生徒に対し余裕を持ってより細やかな指導を行うことができるようになった。		・生徒1人1人の状況をよく見て、その生徒に合った指導をしていく。	
		時間を守り、安全、安心を確保する	・制服をきちんと着こなすことができるよう、指導の指針を見直し、指導方法を工夫する	・生徒指導部や学年主任会などで生徒の現状について報告し合い、改善の度合いを把握する	・遅刻生徒も少ない数をキープし、放課後の遅刻指導も定着しているため、以前ほど遅刻の指導に多大なエネルギーを掛ける必要がなくなった。	・遅刻する生徒の背景にある家庭事情などにも目を配って指導をする。		
			・頭髪チェックについては生徒指導部が主導し、学年主任や担任と連携しながら徹底を図る	・入室カードの使用状況がどうであったか ・入室遅れの生徒が減少しているか	・入室遅れの生徒も遅刻同様少ないので、より細やかな指導が可能になった。	・分かりやすい授業を教師が実践し、生徒のやる気をさらに引き出す。		
		自律心を高め、自己の可能性に気づかせる	・授業開始1分前着席を定着させ、学習に取り組む姿勢をさらに向上させる ・生徒教師ともチャイムで授業を始めチャイムで終わる習慣を付ける	・入室カードの使用状況がどうであったか ・入室遅れの生徒が減少しているか	・登下校時のマナーは向上している。	・結果だけでなく、取り組む姿勢を褒めるなど、より意欲の湧くような指導をする。		
・登下校の見守り活動を組織的に確立し、切れ目なく安全を確保する	・生徒活動推進部による部活動、清掃活動、ボランティア活動、学校行事への取組を、生徒指導部としてもできる限りサポートし、自己有用感、達成感を抱かせる	・アンケートなどを実施して、生徒の意識に変化が見られるか ・自己有用感、達成感を持つ生徒の割合が増加しているか	・日頃の地味な活動だけでなく、球技大会など行事への取り組みもマナーを守りながら積極的に参加できた。	・マナーの向上にさらに努める。				
教育環境部	人権意識の向上を図り、差別や偏見をなくし、互いに理解し、共に生きようとする資質や行動力を育成する	人権教育の日常化を目指すとともに、その実現のための教職員の人権意識の向上、及びにスキルアップを図る	LHRや学習会に限らず、あらゆる機会を捉えて人権教育の充実を図るこのために教職員の意識や力量を高める研修の充実を目指すとともに情報の発信に努める	・職員の全体研修を1回以上実施できたか ・自主参加の研修会を3回以上実施できたか ・人権レターを月1回以上発行できたか	・奈良高等看護学校から藤田先生にご来校いただき、全職員で特別に支援が必要な生徒に対する考え方、支援の方法について考えることが出来た ・人権レターは定期的ではないにしろ毎月1回のペースで発行できた ・自主参加の人権に関する研修については日程等の関係で実施できていない	B	・研修の成果を各職員が生徒に展開したいと思えるような内容を準備する ・職員研修を少人数で行う、グループワークで行う等その意見を吸い上げる仕組みを考えたい	生徒理解のための取組をどのように行ったか。 年度当初、中学校訪問や二者面談等を通じて得た情報を職員間で共有し、機会をとらえて情報交換を行った。また、特別支援について全体研修を行い、理解を深めた。
		人権三法の精神を尊重しつつ、生徒の心に響く学習内容の創造・充実を図り、より効果的な展開のありようを工夫する	人権学習ホームルームを早期から計画立案し、学年の打ち合わせではホームルームの展開例の提示にとどまらず、教師自身が展開する内容について深い理解を得た上でホームルームの展開が考えられるよう工夫する	・人権学習ホームルームに向けて、分掌・学年において早期に十分な準備ができたか ・人権学習ホームルームの打ち合わせを通じて、教職員の人権意識の向上を図ることができたか	・人権学習ホームルームに向けてその実施の前には必ず学年での研修会を行い、さらにその前には分掌にてその指導計画について討議することができた ・人権学習ホームルームに向けての学年打ち合わせにあっては、ホームルームの進行にかかわっての内容が主となっていたように思われる		・学年での研修の前に各教員が自ら人権学習ホームルームの展開を考慮することができるよう、早期の資料配付を行う	
		生徒理解の深化と、それを踏まえた教育実践や支援の体制を充実させる	SNEチームを中心として、生徒理解のための職員研修をはじめとして、さまざまな場面において支援に必要な生徒の情報を共有し、特別支援教育を進める全校体制に資する	・生徒理解のための機会・研修をどれだけ設定できたか ・具体的な支援に向けての校内の体制を調整することができたか	・年度当初、中学校訪問・二者面談などを通じて得た情報を全職員で共有する機会を持つことが出来た ・1学期において中間調査や期末の調査の成績について会議の際に支援を必要とする生徒の情報交換を行った		・学年会議等で各学年の特別に支援が必要とされる生徒の情報を共有し、各学年の特別支援係がその情報をとりまとめる	
	学校の環境美化を通じて、生徒の環境についての意識を高めるとともに、防災・安全に関する意識を高め、そのスキルを向上させる	学校の環境美化を図るとともに、生徒自身の環境に関する意識の向上を図る	清掃活動の充実を図るとともに、その必要性を自覚できる機会を設ける	・環境整備委員による清掃状況・清掃用具の点検においておおむね80%以上のプラス評価があったか	・環境整備委員の清掃状況・清掃用具の点検にあっては、80%以上のプラス評価を得ることができた。さらにそこで挙げられた用具の不足については速やかに補充することができた	・環境整備委員の清掃状況・清掃用具の点検を2学期末にも行い、年度末を十分な状態で迎えられるようにする		
	施設・設備の安全の徹底を図る	施設・設備の安全の徹底を図る	施設・設備を正しく利用しようとする態度の育成に努めるとともに、その点検・保守管理に努める	・施設・設備の正しい使用のあり方についての啓発の機会を持てたか ・修繕を要する箇所に対し、すみやかに対処できたか	・ごみの出し方等で少々ルール通りでない場面が見られた ・必要な修繕箇所に関しては、速やかに対処できた	・年度始めにごみの処理に関してわかりやすい説明を生徒に示し、その理解を促す		
保健体育部	・生涯にわたって心身ともに健康でたくましく、活力に満ちた生活を営む基礎的・基本的な態度を育成する(体力の向上、食育の推進、健康習慣の確立) ・部活動の活性化 ・学校安全、衛生環境の維持・充実を図る	生徒自らが健康課題を見つけ、解決するために適切な指導・支援を行う	・防衛体力・自己管理能力を高め、保健室の利用者を減少させる ・「保健だより」「食育だより」の発行により、「健康」についての啓発を心がける	・保健室利用者、昨年度より10%減	・1月21日現在の保健室利用者は309名であり、前年の431名から28.3%減少した。目標値は達成したが、体調不良者に対して速やかな帰宅を促したことが減少の大きな理由であると考えられる。	B	・コロナの収束後に利用者が急増することのないよう、体調管理に努める意識を引き続き啓発していく。	新型コロナウイルス感染症対策として学校としてどのように取り組んだか。 感染症予防としては、昨年以上に三密の回避、日々の検温、手指消毒、マスクの正しい着用の励行等、県のガイドラインに則り、徹底して行った。また、感染者発生に際しては、県教委、保健所と連携を密に取って対応を協議し、人権に配慮しながら対応を行った。
		運動部活動の意義、取り組む姿勢を見直す	・1年生を対象に少なくとも一つのクラブを体験させ、クラブへの加入意欲を高める ・クラブ員集会を通して、クラブ員が学校生活に与える影響を理解し、学校行事に参画する気持ちを持たせる	・新入生の運動部加入率40%以上 ・退部者を年間20人未満にする	・新入生に対しクラブ体験をさせた。年度当初の新入生の運動部加入率は44.3%であった。 ・退部者は20名未満にとどまった。しかし、生徒数に対する割合は高い。		・新入生の加入率は他学年と比較して高く、クラブ体験は有効であったと考える。来年度以降も引き続き実施したい。 ・継続的にクラブ活動に参加させることが引き続き課題である。	
		「健康」に興味・関心を持たせ、スポーツの楽しさ、身体を動かすことの意義を理解させる	・さまざまな体育行事において、健康や身体を動かすことにより興味・関心を持ってよう企画・運営する	・体育大会・マラソン大会参加率95%以上、新体力テスト偏差値45以上	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体育大会の代替行事として学年別の球技大会を行った。参加率は96.5%で目標値を達成した。 ・新体力テストの偏差値(Tスコア)の平均値は、37.9に留まった。		・体育的行事に対する意欲は高い。 ・授業や運動部活動において、基本的な運動能力を養う活動を積極的に取り入れる。	